

鑑賞と観賞



佐々木氏



つい最近まで間違っ
ていた慣用句がある。

「^{ひん}貧すれば^{どん}食す」

正しくは「貧すれば^ど鈍す」。貧しければ頭の働きも含め物事全てへの反応が鈍くなるという意味である。私は貧しければ食欲になると独りよがり
に思い込んで、こう記憶してしまつたのである。

原稿用にメモ書きしていたものをパソコンで打ち込んでいたときに、何度変換しても「鈍」が出てくるので調べ直し、ようやく長年の誤用に気がついたのである。この慣用句をこれまで文中で用いたことがなかったのが幸いであり、恥ずかしい限りである。

なお太宰治も誤用したということであるが、彼の場合は間違いであつても、それはそ

れで意味が成り立ってしまつていたところが面白い。

まるでウィーン会議

もうひとつ、先日とある会議にて――。

その会議では出席者が比較的自由に意見を言うことができた。司会者も特にまとめようとはせず、皆思い思いに好きなことを言っていた。いつしか意見は論理ではなく声高に感情的な主張を優先するものになり、まるであのウィーン会議のように方向すら見いだせないまま、ただ徒に苦痛の時だけが過ぎていった。

定刻を大幅に過ぎてようやく終了を迎え、司会者が最後のあいさつ。「^{けんけんかくかく}喧々諤々、活発にご議論いただき、実り多

い」

イライラしているときはちよつとした言葉遣いも耳に障る。自分の誤用も棚に上げて、おいおい、それを言うなら正しくは「^{かんかんかくかく}侃々諤々」だよ。いや、まったく中身がなく、ただ喧しいだけだつたのだから、むしろ「^{ごうごう}喧々囂々」かな――もちろん声には出さず、心で思っていただけである。だが待てよ、と考え直す。司会者のエスプリのありそうな笑顔を見るうちに、彼はそうしたことをすべてわかつた上で、敢えてこう言つたので

「鈍すと食す」のように、

終了後、興味が勝つてイライラする気持ちはきれいになくなつていた。なお、改めて調べたところ「^{ごうごう}喧々諤々」も近年は間違いではないとされているようである。言葉は変化するもの。私が少し時代遅れだつた。そんなこともあつて、今では彼の用法は意図的なものだったと確信するに至っている。

医療法人社団 正風会

理事長 石井 正三

石井脳神経外科・眼科病院

玉川コンタクトレンズセンター
いわき市小名浜林城字塚前3-1 TEL.0246-58-3121(代)

石井 正 記念 石井 医院

デイケアセンター
いわき市配食サービス事業
いわき市小名浜字本町60 TEL.0246-54-5330

石井医院 在宅介護支援事業所
石井正記念石井医院3F TEL.0246-38-8301

小名浜訪問看護ステーション
石井正記念 石井医院2F TEL.0246-54-5802

総合在宅支援センター
石井正記念 石井医院3F TEL.0246-54-5330

介護老人保健施設 天然温泉通所
リハビリテーション **テルメ照島**
TEL.0246-62-0034

いきがい村
いわき市小名浜町東ノ作164-2
TEL.0246-62-0030

いきがい村 居宅介護支援事業所
TEL.0246-77-3223
いきがい村 訪問リハビリテーション事業所
いきがい村 訪問介護事業所

社会福祉法人 **ケアハウス小名浜** いわき市小名浜字本町60-6
TEL.0246-73-0100



ダフィット・テニールス
「ブリュッセルの美術陳列室における大公レオポルト・ヴィルヘルム」
1651年 プラド美術館

ネーデルランド（オランダ。当時はベルギーも含まれていた）総督、ハプスブルク家の大公レオポルトが集めたコレクションを自邸で公開した場面。
画中に描かれたティツィアーノやジョルジョーネなどの絵画の多くは、現在ウィーン美術史美術館所蔵である。
大公の美術愛はよく知られているが、この埋め尽くすような「展示」は鑑賞ではなくコレクションの誇示が目的だったのだろう。

日本語には数多くの同音異義語がある。「機械と器械」「物件と要件」「移動と異動」などは会話の中ではとっさの判断が難しく、異義・異議・意義、追求・追及・追究などになるとさらに難易度が高くなり、文章においてすら間違えて使用する場合が少なくない。

「鑑賞」とは、例えば水糟の中のメダカ（私は好きではないがトカゲでもヘビでもかまわない）などを見て楽しむことであり、それ以上でも以下でもない。対して美術作品をカンショウする場合は「鑑賞」と書く。見て考察し、理解して味わうことである。一枚の絵画を形づくる優れた

展示に工夫凝らす

た技（これをラテン語でアル・ス・アリスという。アートの語源である）や、込められた意図に思いを巡らせて考察する——対話すると言ってもいいだろう——ことは、私たちの心に喜びと豊かさをもたらす。これこそが、人間が美術をつくり、見続けてきた理由である。

だから断固として、「鑑賞」でなければならぬのである。ついでにカンショウの同音異義語でもうひとつ、「観照」という言葉がある。こちらは徹底的に主観を排除し、客観的に事物について考察し、その本質を明らかにすることである。どちらかといえば哲学的宗教的な意味合いが主であることから、一部美学的な用途を除けば作品カンショウに充てられることはない。美術館では鑑賞を促すために展示にもさまざまな工夫を凝らしている。照明、作品の間隔と配置、鑑賞者の視線に合わせた高さ、壁面の色：鑑賞者の滞留時間が長ければ、十分に対話をしてきてくれる証しであり、展示の苦勞が報われたようで嬉しさを感ずる。

筆者プロフィール

佐々木 吉晴

ささき・よしはる

1956（昭和31）年宮城県生まれ。東北大学文学部哲学科美学西洋美術史専攻卒業。いわき市在住。1980年、いわき市立美術館建設準備室に勤務、学芸課長、副館長を経て2012年から2021年まで館長。現在、宇都宮美術館長、斎藤清美術館長、全国美術館会議理事・災害対策委員長

HEART
TO
PARTS

株式会社 佐藤部品商会

流通センター営業所：いわき市常磐西郷町銭田107
TEL0246-88-6775 / FAX0246-72-1387

総務部：いわき市常磐西郷町銭田107 TEL88-6775
小名浜営業所：いわき市小名浜西町5-4 TEL54-6262
平営業所：いわき市内郷御殿町4丁目59 TEL27-6200
四倉営業所：いわき市平泉崎字砂田56 TEL34-5413
須賀川営業所：須賀川市森宿字辰根沢158-3 TEL(0248)94-4601
ときわ出張所：いわき市常磐水野谷町諏訪ヶ崎89 TEL43-2275
本宮営業所：本宮市荒井字青田原1-522 TEL(0243)34-6770
リビルト/タイヤ事業部：いわき市常磐西郷町銭田107 TEL88-6771